挑戦する企業

株式会社 **ハマキャスト**

経年劣化しにくい外装材と施工技術で建物を長寿命化し、社会課題にも挑戦

外装材の独自開発に成功し、施工、監理に至る工程を一貫して行う「完全責任施工体制」を確立した株式会社ハマキャスト。「50年対応20年保証」という異例の長期保証は、メンテナンス頻度を軽減し、建物のライフサイクルコストを削減。さらに「脱炭素」という社会目標の実現にもつながるため、各方面から注目されている。

塗料の材質によって異なるものの、一般的な建物の外壁塗装の耐用年数は7～12年とされる。塗装の劣化は美観を損なうだけでなく、クラック（ひび割れ）や腐食の原因にもなりかねず、耐用年数に応じて定期的に改修工事を行い、資産価値を守る必要がある。

株式会社ハマキャストは、独自に開発した特殊な外装材を用いることで塗装の長寿命化を実現し、業界としては異例の「50年対応20年保証」という長期保証を打ち出した。メンテナンス頻度の軽減は建物の維持・管理コストの削減だけでなく、工事の際に発生するCO_2の削減にもつながる。

また、そのノウハウを応用したタイル脱落防止工法や防水工法にも「50年対応20年保証」を適用し、顧客の支持を集めている。サステナビリティ（持続可能性）を体現する取り組みだけに大手企業や官公庁、学校などからの関心も高く、2021年12月には自家消費型太陽光発電サービスを提供するDaigasエナジー株式会社（Daigusグループ）と業務提携をスタート。屋根の劣化や強度不足が指摘される建物への太陽光発電システムの設置は難しいとされてきたが、同社の防水工法の活用で、そうした建物にも設置できる可能性が高まるという。

「これからはスクラップ・アンド・ビルドの時代ではない、というのが先代の口癖で、以前から私たちは外装材の開発や工法の研究を通じて、建物の寿命をいかに延ばすかというテーマに挑んできました。先見の明でSDGsを先取りしたと言いたいところですが、おそらく不誠実な仕事をしたくなかったからだと思います。先代は、目先の利益を追うだけの仕事やぞんざいな作業を嫌いました。建物を大事にするとか、社会の役に立つといった真っ当な規範意識が、結果として会社を社会課題の解決へと導いたのではないでしょうか。先代が残してくれた文化をしっかり受け継ぐことが私の役割だと、気を引き締めています」

代表取締役社長の濵中陽子氏は、自社の取り組みをそう語る。同社は、1945年、濵中社長の祖父・恵松氏により創業された。当初は防水工事専門だったが、61年の法人化にともなって濵中社長の父である先代の清海氏が跡を継ぐと、やがて外装工事にも進出。70年の大阪万博では、その丁寧な施工技術が信頼され、5つのパビリオンの屋上防水工事を担当した。

転機となったのは、御影石調の外装材「ハマキャストジュエル」を開発した83年だった。職人気質の強い施工会社が外装材の開発に乗り出すケースは、きわめて珍しい。外装材の開発に成功したことで、同社は施工、監理に至るまでの工程を一貫して行う体制を整えた。この「完全責任施工体制」が「50年対応20年保証」という長期保証を可能にした。

耐候性・耐久性に優れた専用トップコートを、ローラーで2回塗布し、50年対応20年保証を実現

独自に開発した外装材は軽量で耐久性がある。見ても、触っても天然石の壁と差を感じない

自社商品への理解を深め、施工技術を向上させる社内講習会を定期的に開催

都庁第一本庁舎と第二本庁舎をつなぐ渡り廊下を含む約8,000m²の外壁仕上げを担当。本庁舎外壁（天然石）に調色した石材調外装仕上げにより軽量化を図り、30年以上経過した今も美しさを維持

社内では常に社員に声をかけ、円滑なコミュニケーションを図っている濵中社長(右)

「たとえ施工が丁寧でも、肝心の外装材に不安があれば長期保証はできません。独自開発は、どうしてもクリアしなければならない課題でした。ずいぶん苦労したようですが、完全責任施工というビジネスモデルにより、流通が簡素化されて大幅なコストダウンが実現し、お客様に対するトータル的なサポート体制も確立しました。現在では、下地材や機能材、防水材についても、社内の技術研究所で研究開発しています」

独自に開発した外装材は、細部にまで配慮の行き届いたオリジナル工法によってさらに評価を高め、89年には東京都庁舎にも採用された。同社の技術力が端的に現れるのは、なめらかな表面加工とくっきりとエッジの効いた目地の処理で、天然石の質感が忠実に再現されている。

就業規則の改定やIT化など社内基盤の整備に取り組む

製品開発も手がける施工会社として全国に顧客を広げる中、濵中社長は2007年に入社した。営業をはじめ、製品開発、人事、広報の各部門を経験したものの、先代が承継の意思を示すことはなく、濵中社長自身も受け継ぐ考えは頭になかったという。だが、19年秋、先代が病に倒れて療養を余儀なくされたため、急遽、その跡を継いだ。

「経営者の娘とはいえ、決算書すら目にしたことがなく、経営者の役割も理解していませんでした。先代の日常をたどり、その行動から仕事を推測していきました。就任の挨拶や事業承継の手続きに忙殺されるうち、コロナ禍への対応にも迫られ、嵐のような日々でした」

突然の代替わりだったが、社内の結束と協力もあって混乱は徐々に落ち着き、やがて新しい日常が始まった。就任以来、濵中社長が重点的に取り組んできたのは、就業規則の改定やITの導入による業務の効率化といった環境整備である。さらに、自社の存在意義をあらためて確認し、今後の指針とするため「人・街・環境に『いいこと』をもっと、ずっと、ぐっど。」というパーパスを掲げた。一方、慣れない仕事に追われながらも父の快復を祈り続けたが、残念ながら、その願いは届かなかった。

「厳しい時期に重責を担うことになりましたが、過去には経済危機も自然災害もありました。祖父も父もピンチを乗り越えてきたわけです。どんなに強い逆風も軽やかにかわすような、しなやかさと力強さを兼ね備えた組織にするのが、私の目標です」

株式会社ハマキャスト

2023年3月、代表取締役社長の濵中陽子氏は大阪商工会議所主催の「第1回活躍する女性リーダー表彰」を受賞。ロールモデルとして後進の育成にも貢献

Corporate Profile

代表取締役社長	濵中陽子
本　　社	大阪府大阪市北区堂島2-3-5
創　　業	1945年
売 上 高	20億5,000万円（2022年3月期）
従業員数	60名（2023年6月現在）
https://www.hamacast.co.jp	

取材・文／榎本充伯　撮影（P19.右上、下）／成田直茂　写真提供（その他）／株式会社ハマキャスト